

Gallery 愛海詩

手技のぬくもり 新しい年を楽しむ 展示会 日々を豊かに彩る

彩遊の号 No.47
愛海詩の会
会報
令和4年12月20日発行
編集発行人/ギャラリー愛海詩
佐藤 睦子
〒064-0821
札幌市中央区北1条西28丁目2番17号
TEL・FAX/(011)613-1112
WEBSITE
http://www.emishi-s.com
E-mail:kougei@emishi-s.com

12月27日～令和5年1月29日

◎新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに沿って対応させていただきます。
◎ギャラリー愛海詩へいらっしゃる時は、そのご予約をお手数ですがお電話下さい。

「日は好日」
ピリツと寒さ極まり、北の街は白銀の世界です。これから約四ヶ月間は白銀に挑み、慰められる日々でもあります。各方面では当然、リスキを抱えて過ごすわけでありませぬ。この自然の厳しさ、優しさ、先人の喜び、憤り、諦念、忍耐、その乗り越えて来たプロセスを想像すると、風土に培われた人間性は確かにある、と思えます。

それゆえに、この地には一層文化が光となる、と確信するのです。人々の心にその光が少しでも差し込み、温かく届くよう、そこにギャラリー愛海詩・愛海詩の会の役割の一つがあります。そしてまた、皆さんからの光もいただきつつ、一期一会のやり取りが文化の光の輪となることも思えます。そして、私はつくづく、北海道、この地を、人を、あれこれと哀し、尊く誇りにも思っています。この冬の極まりの中でも心揺らして奮わせて、冷・古・振る、冬の語源をなぞりつつも、一日、一日を愛おしく過ごして参りたく思います。

令和四年は皆さまにとりて、どのような年になりましたでしょうか。引き続きのコロナ禍により、気が晴れない時もあつたのではないのでしょうか。しかし、挫けず、無理をせず、前向きに過ごされるよう、願っております。

ギャラリー愛海詩・愛海詩の会は今年もコロナ禍にゆさぶられた年でありました。そのような中でも、愛海詩の会員を始め、陰に陽に励まして下さる皆さまの笑顔と言葉に勇気をいただきました。その中の一つの物語です。長く愛海詩の会員でいらつしやる方の息子さんに、「りゅつへい」という、三十歳前後と思しき男性が毎回のよう作品展にいらして下さいます。そして、一つ、二つ、三つ……とほとんどが自身への褒美であるかのように作品を求めて下さいます。それは職人・作家への応援でもあることが、お話しや行動からそれとなく伝わって来ます。心優しく物事に迎合せず、ご自身をしっかり持っている今時めずらしいような青年です。作品を見るセンスも抜群です。このような人と、人と作品が織りなす物語の頁が増えていくことはうれしい事です。

そして、令和四年のギャラリー愛海詩・愛海詩の会の働きを省みて、そのあれこれ令和五年の糧として、歩みを進めて参ります。

令和四年の日々、そして令和五年の新しい年が、皆さま、職人、作家にとつて、照る日も曇る日もあるいは雪の日も、自身の心如何による映し鏡に相照らし、真に整え、「日は好日」でありませう、心より祈念いたします。

(佐藤睦子)

◆ お誘い ◆

「北海道の文化と物作りを語る会」

新しい年を迎えるにあたり、ミニ新年会もかねて、作家達の作品を見ながら、日本、北海道の文化を語りしたいと思います。忌憚のないご意見、お考え、思いなどもお聞かせ下さい。どなたでも参加できる楽しい会です。両日共、先着5名です。ギャラリー愛海詩にご連絡、ご予約下さい。

日時 令和5年1月20日(金)・21日(土)
午後1時30分から午後3時まで

参加費 両日共、3,000円(お茶、お土産付き)

●●● お知らせ ●●●

来年、ギャラリー愛海詩・愛海詩の会は25周年を迎えます。それに伴い愛海詩の会は「一般社団法人 愛海詩」を新たに立ち上げます。法人化により、以上に北海道の文化的働きに貢献していく所存でございます。

任意団体の愛海詩の会会長の葛西ひとみ氏と話し合いつつ、令和5年4月3日(月)の発足を目指し準備しております。愛海詩の会の会員、そして皆さまにおかれましては、変わらずお支えいただけますよう、お願い申し上げます。

また、25周年記念の催しを、9月2日(土)午後2時から徳川宗家、徳川家広様と生物学者の福岡伸一様をお迎えしてさせていただきます。詳細はギャラリー愛海詩へお問い合わせご連絡下さいませ。

今回の展示会は「新しい年を楽しむ」：ギャラリー愛海詩にご縁ある職人・作家の新作や新しい年に相応しい作品を取り揃えました。頑張っているご自身へのプレゼント、大切な人へのプレゼントを探しにいらして下さい。手から手へ、心から心へ伝わる温もりがあります。外は寒い毎日ですが、心が温かくなる出合いも重ねたく思います。そう、手作りの作品も佳き出合いを待ちます。人はまず各々の出合いがあつて、心ほのかな灯りが点るのです。今年二人の江戸切子の職人と出会うことができました。また、甲斐幸太郎氏の木工作品の進化、うれしかったですね。青白磁、北海道で頑張っている北川智浩さん、初めての個展でした。そしてその他にも果敢に創作する職人・作家達。行く年来る年の言祝ぎとしての展示会、どうぞご高覧下さいませ。

●●● ギャラリー愛海詩・愛海詩の会のオリジナルカレンダーをいただいて下さる方は遠慮なく申して下さい。(無料です)水彩画家・酒井芳元画伯の絵も素敵です。

木曜今ラジオ番組のお知らせ

毎週木曜日、FMラジオカロス札幌78.1Mhz、午前11時からの約1時間、ギャラリー愛海詩の佐藤が生放送させていただきます。文化を伝える、本物の手仕事を応援する番組です。(土曜日午後11時から再放送) どうぞお聞き下さい。(サイマルラジオでも聞けます)



嵯峨面 (干支・卯)
よこ15cm×たて(耳も含む) 23cm
伝統と信仰が結びつき、厄除魔除面として京都嵯峨で作られている。藤原宇石氏の作品です。師走の声と共に、来る年の招福を祈願しての嵯峨面です。干支面の他にも福徳面や観音菩薩面、不動明王面等、多くの面が創作され、藤原宇石氏の妥協のない真摯な仕事振りが伝わってきます。玄関や部屋の一角をそうと照らし続けて守ってくれるような気風があります。



日本刺繍・名古屋帯「松」
あわいグリーン地に松の葉と実が丁寧に刺繍されています。川戸藤枝氏の作品です。少し左に出ている部分が前になります。松の葉の色使いが微かな動きを見せ、品よく纏まっている構図が凛とした雰囲気を出します。出番の多い帯になりそうです。



祝いの湯呑と箸
湯呑：口径6cm×高さ8.5cm
難を転ずる、湯呑の南天の絵、白銀の輝きが美しく、ほっとする時間をいただけます。香蘭社製です。盆は末広がりの八角盆。甲斐幸太郎氏の削り抜きの技が光ります。たもの拭漆です。箸の飾りは水引きで祝いの膳によく写ります。



水引き「円相」
円の直径：約23cm
赤・白・金の円相の水引きは実に310本を結んでいます。稲穂は本物で椿や松などの水引きの飾りが引き立ちます。宮本洋子氏の水引き作品ですが、落ち着いた華やかさの中にも凛とした佇まいが清風を運んでくるようです。



内裏型染めタペストリー
よこ60cm×たて40cm
型を彫り、一部手描きで染めあげています。春が待ち遠しく、タペストリーの中に言祝ぎを感じます。大谷岬子氏の作品です。手織りの麻布、手染めによる風雅が伝わってきます。壁に掛けるだけでその場の雰囲気が変わり、憩わせてくれる作品です。



菊脚コーヒー碗 (菊)
碗：口径18cm
沈壽官窯の美しいコーヒー碗です。細部にまで美が宿っていて、その陶のはだあい、絵柄の色取り、デザイン、皿の三方の脚は愛らしい菊の形になっています。おいしく、素敵なコーヒータイムのお供に使っていただきたい沈壽官窯の伝統的な作品です。



プチプレートセットと季節のお皿5枚組
お皿：直径24cm
いずれも香蘭社製の愛らしいアイテムです。左のプチプレートセットは小さな額絵にもなりますし、時に取り出して箸置きやカトラリー置きにもなります。(少し中心に窪みがあります) お皿はケーキを入れたり、取り皿としても使えます。各々1年の流れが絵になり、会話も弾みます。緑を彩るペパーミントブルーの色が引き立ちます。



木の片口と江戸切子のぐい呑
ぐい呑：口径5.5cm×高さ6cm
片口は甲斐幸太郎氏作、ぐい呑は瀧澤利夫氏作。どちらも名工で美しい技を見せてくれています。これほど完成度の高い作品は使う毎に物語が生まれ、時を味方に付けて行きます。その時々心の鈴が鳴るような...

ギャラリー愛海詩 オープン時間 ・11時30分～18時 ・木曜日 13時～18時 ・月曜日 定休日
・年末年始 12月30日(金)～1月4日(水)までお休みさせていただきます。